

■コメント

1. インフルエンザ

定点当たり1.35人とやや減少しました。例年、春休み後に再び増加し、小規模な流行が5月頃まで続く傾向がみられるため、引き続き手洗い・うがいの励行、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

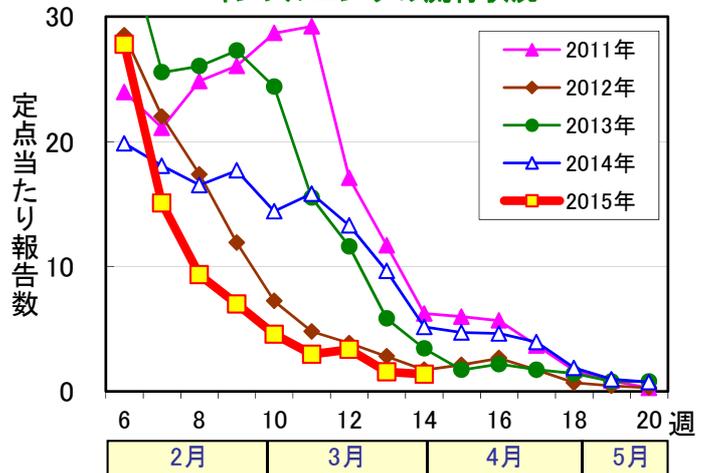
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり2.58人と、例年同時期と比較して多い状態が続いています。

3. 感染性胃腸炎

小児科定点からの感染性胃腸炎の報告数は定点当たり7.13人と、前週と比べやや減少しています。例年この時期に増加傾向が見られるロタウイルスによる感染性胃腸炎は、基幹定点から10人の報告がありました。(次頁参照)

インフルエンザの流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	急増減		前週と比較しておおむね1:2以上の増減	
												急増	急減		
小児科	インフルエンザ	50	1.35	3.35	△	小児科	流行性耳下腺炎	24	1.00	0.58	△	急増	急減	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減	
小児科	咽頭結膜熱	1	0.04	0.22	△	眼科	RSウイルス感染症	1	0.04	0.04	△	急増	急減	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	62	2.58	1.03	△		急性出血性結膜炎	-	-	0.03	△	急増	急減	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	
	感染性胃腸炎	171	7.13	8.29	△		流行性角結膜炎	5	0.63	0.68	△	急増	急減	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	
	基幹	水痘	9	0.38	1.34	△	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.06	△	急増	急減	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
		手足口病	6	0.25	0.54	△		無菌性髄膜炎	1	0.14	0.03	△	急増	急減	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
		伝染性紅斑	2	0.08	0.22	△		マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.20	△	急増	急減	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
		突発性発しん	14	0.58	0.52	△		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	△	急増	急減	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
		百日咳	-	-	0.13	△		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	10	1.43	-	△	急増	急減	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
		ヘルパンギーナ	-	-	0.05	△									

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	31	男性(60歳代)・1人、女性(90歳代)・1人
5	後天性免疫不全症候群	1	3	男性(40歳代)・エイズ

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎	
		第10週	168	2	69	243	6	4	-	11	-	2	58	1	-	3	-	2	-	-	-	-
第11週	109	-	78	257	9	6	-	9	-	-	27	5	-	5	-	-	-	-	-	-	-	
第12週	124	3	80	196	9	2	-	2	-	-	28	-	1	2	-	-	-	-	-	2	-	
第13週	57	2	78	191	7	7	1	9	-	-	38	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
第14週	50	1	62	171	9	6	2	14	-	-	24	1	-	5	-	1	1	-	-	10	-	
定点当たり	広島市	第10週	4.54	0.08	2.88	10.13	0.25	0.17	-	0.46	-	0.08	2.42	0.04	-	0.38	-	0.29	-	-	-	-
第11週	2.95	-	3.25	10.71	0.38	0.25	-	0.38	-	-	1.13	0.21	-	0.63	-	-	-	-	-	-	-	
第12週	3.35	0.13	3.33	8.17	0.38	0.08	-	0.08	-	-	1.17	-	0.13	0.25	-	-	-	-	-	0.29	-	
第13週	1.54	0.08	3.25	7.96	0.29	0.29	0.04	0.38	-	-	1.58	0.08	-	0.13	-	-	-	-	-	-	-	
第14週	1.35	0.04	2.58	7.13	0.38	0.25	0.08	0.58	-	-	1.00	0.04	-	0.63	-	0.14	0.14	-	-	-	1.43	
全国	第12週	3.85	0.34	2.94	7.30	0.48	0.42	0.41	0.44	0.01	0.03	0.30	0.33	0.02	0.33	0.03	0.03	0.23	0.02	0.50	-	
第13週	2.63	0.32	2.69	6.60	0.53	0.50	0.44	0.48	0.01	0.04	0.37	0.29	0.01	0.45	0.02	0.03	0.25	0.01	0.49	-		

■新たに判明した病原体検出状況

(検査:広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	胃腸炎 嘔吐	11	男	2015/02/12	糞便	ノロウイルスG2群
感染性胃腸炎	発熱(38.6) 胃腸炎 嘔吐	7	男	2015/02/13	糞便	ノロウイルスG2群

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】広島市におけるロタウイルス検出状況及び基幹定点からの感染性胃腸炎(ロタウイルス)報告数

図1 迅速診断キットによるロタウイルス検出状況

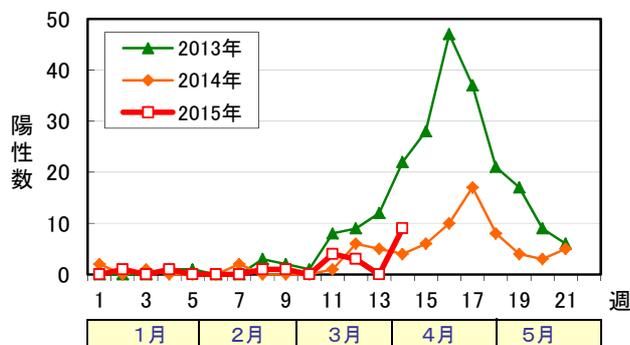
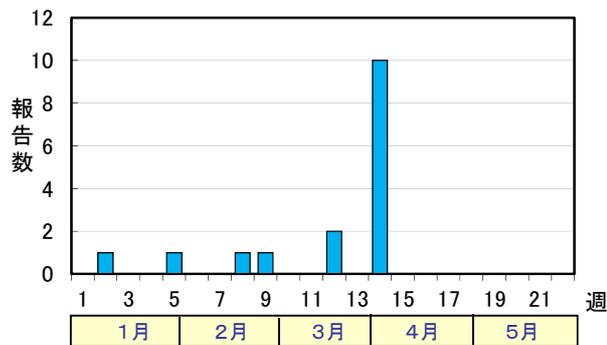


図2 基幹定点からの感染性胃腸炎(ロタウイルス)報告数



感染性胃腸炎の原因ウイルスとしては、例年、全国的に12月から2月頃はノロウイルス、3月から5月頃はロタウイルスが多くなる傾向があります。

市内の基幹病院2か所による迅速診断キット検査結果(図1)では、今年も3月からロタウイルスが若干検出されはじめています。また、基幹定点7か所からの感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)の報告数は、第14週は10人と多く増えており(図2)、今後の動向に注意が必要です。

ロタウイルスによる感染性胃腸炎は、ノロウイルスに比べると患者の年齢層がやや低く(6か月から2歳くらいの乳幼児に多い)、症状が少し重い傾向にあるといわれています。健康管理に注意し、手洗いの励行など、感染予防対策を心がけましょう。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp